

令和2年度 主な事業計画

単位(円)

【福祉部】

「高齢者在宅生活支援事業」と「地域子育て世代支援事業」を統合し、新たに自主防災等を加え、地域住民の生活に必要な基礎的事項に及ぼす諸問題の解決に当たる。

○自主防災への取り組み

ドローン地産地防プロジェクトの実施により購入した機体の更なる自主防災への活用について、地域、育成された担い手と協議する。
すでに提案のある赤外線カメラなど付帯機能の拡充を図る。

【農商業推進部】

「農業振興・特産品開発事業(わくわく農業チャレンジャー)」と「農村環境維持・向上事業」を統合し、新たに林商工業の推進を加えて、地域経済の低減の歯止めについて考えると共に、農地を中心とした環境保全に努める。

地域農産物の販路確保のため百彩館の活性化協力を行う。同施設の「空きスペースの活用と実施者の誘致」・「農産物の効率的な売り場への分配」について、具体的な内容で協議を進める。

また百彩館を中心とした販わいの創出として、年数回の軽トラ市の開催を計画する。初回は大型連休頃を予定。

農地保全の対策として、担い手の労働力不足と鳥獣害について対策を行う。

また振興会を対象とした「花いっぱい運動助成」を継続する。

○百彩館の活性化協力

油木地区中心部の活性化を図るため、地域農産物の集約的直売所となっている百彩館の経営向上に協力する。百彩館が通行量の多い国道に面していることから、通行する車・二輪車等が足を止めるよう、販わいを外部から見えやすくアピールする。

本年度は百彩館駐車場での軽トラ市の開催を企画する。

○農地保全 担い手の抱える課題の解消

主に労働力不足の解消と鳥獣害対策について企画する。

労働力不足対策にはラジコン草刈機の導入、防草ネットの有効的活用を主軸にした制度の充実を計画する。また、鳥獣害対策として狩猟免許保持者の増加を促進し、それを支援する。

本年度は狩猟免許取得のための講習会を誘致する。併せて免許保持者を対象とした「わな架設講習会」を開催する。

また、動物駆逐用火火安全講習会を例年通り主催する。

○農村環境保全

道路や地域の人が集まる場所に花や樹木を植える活動を推進するため、「花いっぱい運動」を例年通り助成する。

各所でその広がりや荒廃が問題となっている竹林の整備を支援し、また、支障木等の伐採された枝木を処分する際、野焼きなどが行われないようその処分方法の一つとしてウッドチップを導入する。

【地域づくり部】

「体験・交流推進事業」・「田舎体験・移住促進事業」・「いちば再生事業」を統合し、より住みやすい地域づくりのための施策を考える。

継続中の「一緒に未来を見つけようプロジェクトin油木」並びに「油木生活百科」を活用するため再考し、住民に広くその効果が還元されるよう努める。また、増加する空家の有効な対応策について協議する。

○「一緒に未来を見つけようプロジェクトin油木」

油木地区と都市部を結ぶ体験交流会を企画する団体及びその企画を募集し、センター事業として採用する。採用期間は1企画につき3年間とし、年度ごとに新たに申請書を提出する。平成30年度・令和元年度に採用した2件については申請を受け付ける。

○ウェブサイト「油木生活百科」の維持と活用

住民が登録により自由に地域の問題を投稿することのできるウェブサイト「油木生活百科」の運営を引き続き行う。登録者の増加が振るわないことから、今年度は運営チームを結成し、サイト内の情報の充実を図る。また、参加者の登録を促すイベントを計画し、登録者の増加を図る。

○空き家問題の有効な対策案の協議

自治体の運営する空家バンクの更なる活用を推進し、町と協働による空き家の利活用について有効な活用方法の具体案を協議する。

○地域コーディネーターの配置

空家バンクを利用する登録者に対し、地域とのマッチングを行うコーディネーターの配置を考える。

【生涯学習（ゆきなび）部】

旧公民館事業の「ゆきキッズクラブ」や大人の教室に加えて、平成30年度より包括した「伝統文化継承事業」を中心に生涯学習の推進に取り組みたい。

○旧公民館事業

小学生を中心とした「ゆきキッズクラブ」（放課後子ども教室）を定期的で開催する。大人の教室も地域住民の学びの場の提供を目的として開催する。またスカッシュコートの利用促進も兼ねてスカッシュジュニア大会の誘致を計画する。

○ 伝統文化継承事業

本年は2ヶ所の神儀を撮影・保存(編集)する。

○ 油木協働支援センター主催文化イベントの開催

令和元年度開催したゴスペルコンサートのような文化的なイベントを、油木協働支援センターの主催で企画する。

○ 化石魅力化プロジェクト

令和2年度より生涯学習事業の中でフィールドワークやワークショップを「ゆきキッズクラブ」や大人の教室とも合同で開催する

【化石魅力化プロジェクト】

化石標本展示事業を展開すると共に、住民参加型のワークショップの開催を継続する。フィールドワークを含めた油木地区の地形や地質、自然環境を併せた魅力の創生を図る(ジオパーク的構想)。

○西川化石標本の有効活用

故西川功氏の遺した化石標本を活用し、油木の魅力を創造する。令和元年度は住民に対し標本の価値を認識するきっかけづくりに努めたが、自由に標本を見られない現状にあるため望む声が大きくなっている。本年度は標本展示用の展示室を整備し、住民への保存による価値の還元の仕方を模索する。

【にしかわ運営事業】

開設1年を迎え少しずつ利活用の方法・利用者共に増してきたが、更なる有効的な活用に向けて運営を改善する。特に二階部分の利用方法の模索や、入りやすさの工夫を考える。市場地域の活性化を誘発するためのイベントや、地域住民が集うきっかけとなる住民主体の企画展を細やかに企画していく。